

会 議 録

会 議 の 名 称	第7回宍粟市地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成28年11月10日（木）14時30分～16時45分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 3階 庁議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委 員 氏 名	（出席者） 林昌彦、三渡圭介、玉田恵美、 岡本一也、長田博、春名千代、 田口すみ子、山田寛、古根川淳也、	（欠席者） 種谷淳
事 務 氏 名	宍粟市 企画総務部：中村部長、世良次長 地域創生課：山本課長、原係長、前平主査、幸長主事	
傍 聴 人 数	2名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1．開会 2．委員長あいさつ 3．報告・協議事項 宍粟市地域創生総合戦略 個別事業の進捗状況について 総合戦略の更なる重点化・具体化に向けた方策（アクションプラン） について 企業版ふるさと納税制度の活用について 多様な主体の連携による地域づくりのあり方について 4．その他 5．閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>ようやく本格的な冬が始まってきたようです。先日、福岡で陥没がありました。日本でこんなことが起こるのかと、全く予期できないものでした。また、世界に目を向けますと、アメリカで大統領選挙がありました。予想外の結果でした。危機感を抱えながらも現状をどう改善すればよいか分からない。それならばいっそ壊してしまえという声が強かったのではないかと思います。</p> <p>地域創生についても、スピード感を持って取り組む必要があります。小さなことから取り組み、一つの取組が別の取組の呼び水となるようなことを、宍粟市の地域創生でも行っていきたいと思います。日本では、選挙で投票率が低いことから分かるように、どうせ変わらないだろうというように諦めの気持ちに繋がりがやすい。自治体消滅という話が全国的に話題になりましたが、最悪のシナリオにならないように、市民に開かれたこの戦略委員会が情報発信等を行い、動きのきっかけを作っていきたいと改めて思った次第でございます。</p>
事務局	<p>～資料の確認～</p>
委員長	<p>3. 報告・協議事項</p> <p>宍粟市地域創生総合戦略 個別事業の進捗状況について (事務局より資料を基に説明)</p>
委員長	<p>確認なのですが、直近3ヵ年データとして、年度がA、B、Cとありますが、順に26年度、25年度、24年度と考えてよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的には、そのように捉えていただいて結構です。</p>
委員	<p>空き家への移住について、今年度の現状値が8件ですが、その内訳として市内のどの地域に移住したのか分かれば教えてください。</p>
事務局	<p>担当課に聞きまして、後日内訳を個別にお伝えさせていただきます。</p>
委員	<p>限られた時間のなかで、有意義な議論をしようと思えば、市役所が把握している中で、順調な取組や進捗がうまくいっていない点があれば教えていただき</p>

	<p>たいと思います。どういう問題点があってどういう対策をしているが現在うまくいっていないという話を聞きたく思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>実際には28年度末以降に実績値が上がってくるので、今回は中間の報告という形であるが、報告の仕方についても議論の余地があります。数字に補足的な情報をつけてもらわないと、議論が十分にできないこともあると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>どこに課題があるのかを分かりやすくお示しする必要があり、課題の見える化については検討させていただき、28年度実績の際には十分留意してお示しさせていただきたく思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>この部分については、どこが困っているというような情報があれば、この場に提示していただけたら議論できると思いますので、今後の進め方の課題としてください。</p>
<p>委員長</p>	<p>総合戦略の更なる重点化・具体化に向けた方策（アクションプラン）について（事務局より資料を基に説明）</p> <p>悪循環という説明がありました。雇用の場が少なくなり人口が減少すると、より消費が落ち込み、ますます雇用が少なくなります。この悪循環を断ち切るにはどうしていくか。まずは雇用の場をどう確保していくかがポイントになってくるのではないかと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>先般、真庭市に行く機会がありました。人口や自然環境、地理的条件などは宍粟市と大きくは変わらない市であると思います。林業に全面的に力を入れており、材の残渣を十分に活用しています。また、バイオマス発電所を市内に作り残渣からチップをつくり発電しています。また、相応の収益を一つ一つの山々に還元しており、全体的にしっかりした仕組みが出来上がっています。</p> <p>宍粟市内の製材所は17、18ありますが、そのほとんどが外材をパレットにしており、建築資材はつくっておりません。宍粟材を製材しているのはわずか3社であり、今後、宍粟材から付加価値がついた製品もつくりだしていかなければならないと思います。</p> <p>宍粟材を使った住宅への補助を数年前から行っていますが、宍粟市の業者が宍粟材を使って市内で建てた事例はほとんどないのが実情です。また、宍粟市の業者が市外で宍粟材を使って建てるのも少ない。建築材を増やしていかないと林業の振興には繋がらないと思いますので、今こそ行政が本気で取り組まないと取り返しのつかないこととなります。絵に描いた餅にならないようお願い</p>

<p>事務局</p>	<p>いしたい。</p> <p>行政が本気で取り組まないといけないということや、絵に描いた餅にならないようにしなければならないということは、内部でも議論を重ねてきたところ です。</p> <p>私も真庭市には何度も足を運ばせていただき、お話も伺ってきたのですが、高齢化になり子どもも減る中で、真庭市民有志が何とかしたい、何とかしなければならぬという思いから 30 年後のまちの姿を描いて、そのためには地元の業者には何ができるかという議論を始めるところからスタートしたと聞いております。その中で勝山の商店街の桧のアーケードが始まりました。銘建工業の社長が、当時はほとんどヨーロッパ材が輸入されるなかで廃材をどうするかを考え、バイオマス発電を導入しました。まず民間主導の動きがあり、それに行政がついていったという事実があります。やはり民間と行政の連携により一緒に取り組むことで実現したという側面もあります。</p> <p>林業施策について、行政ができることは限られていますし、担当者も変わってまいります。木材業者一体となって、将来の宍粟市の林業についてご示唆いただければ有難く思います。行政も当然考えますが、業界の方からもご提案いただければと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>仕掛けの原点として、民間も頑張るが、行政も制度の中で工夫し活かしていただきたい。制度自体も PR もしていただきたい。宍粟材の注文がほとんどないので、木材をどんどん出していく仕組みをつくっていただきたい。</p> <p>真庭市の市庁舎など公共施設はペレットボイラーになっています。温泉の足らずの燃料にペレットボイラーを活用しています。市がしっかり補助金も出しています。</p>
<p>委員長</p>	<p>今のお話は、次第の 4 番目の多様な主体の連携による地域づくりのあり方についてというところで議論しようと思っていたことです。</p> <p>市役所は直営で経済活動を行っているわけではありません。補助金を出してはいますが、補助金を出した先が見えないし、その効果が検証できないという実態があります。情報の共有が図れていないというのは根本的な原因になっているのではないかと思います。</p> <p>また、全ての方が林業に携わっているわけではないので、林業に携わっていない方の理解をどう得るのかも重要になってきます。観光においても農業においても、同じことだと思えます。直接携わっていない方も含めて議論をしないと施策は進められません。</p>

委員	<p>先日、高校の先生方と話をする機会がありました。高校も地域創生の主役づくりをめざしていますが、宍粟市の地域創生総合戦略には地域創生を推進する主体として学校が入っていません。入れてほしい、入れるべきであろうという意見をいただきました。</p> <p>学校は、将来の地域を支える担い手づくりをしないとイケません。高校の先生方は危機感も持っておられて、市内3つの高校がありますが、405名の市内中学校卒業生のうち、202名しか市内の高校に入学していないというデータがあるようです。もっと市内に残ってもらえるように頑張らないとイケません。就職の方も、来年自分がどこに住んでいると思いますかというアンケートに対して、ほぼ半分の46%が市内に住んでいると答えています。市内企業に就職するのが28%です。総合戦略の数値目標で「宍粟市に住み続けたいと思う人の割合」がありますが、高校生が地元に住みたいと思ってくれることが大切です。山崎高校では、前年度の就職者数は43名で、そのうち市内企業に勤めたのが16名だったそうです。来年は45名就職で、そのうち22名が地元就職するそうです。割合としては37%が地元に残る、残りたいということです。目標としてこの数字を上げていくのも良いのではないのでしょうか。</p> <p>マッチングフェアも2回開催しており、高校生はあまり来られませんでした。先生がたくさん来られて、市内企業の数に驚かれていました。土日で開催すると先生も生徒に行きなさいとは言えないので、平日に授業の一環として行えばよいのではないかという意見もいただきました。雇用の場がないというよりもむしろ企業を知らないのが地元に残らないのではないかと思います。宍粟の学校を出て宍粟の企業に就職する人の数・割合を、指標の一つにするのも良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>何をするにも目的があります。ビジネスマッチングフェアは、目的の大きな部分として、市内の高校生に地元の企業を知ってもらうという点がある。主催者側も出展企業も、そのことを理解して取り組まなければならない。目的を明確にして意識して取り組まないと、一過性のものになってしまいます。林業や観光の分野で連携するにしても、その効果を皆にしっかり広報する必要があるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>姫路の賃金が良いのもあり、宍粟市で急な仕事の求人を出しても市内ではなかなか人を集められない状況ようです。</p>
委員長	<p>市のハローワークの取組はされているのですよね。</p>
事務局	<p>今年度の3月から開始する予定です。</p>

委員長	それをしっかり市民に情報発信していくことが大切です。
委員	商工会と市がタイアップして求人の企業説明会を行っています。当初宍粟市のみで行っていましたが、3年前から西播磨地域合同でも行っています。多少成果が出てきているなという実感はあります。これからも継続しPRしていくべきであると思います。
委員長	続いて、生活基盤の維持や子育てに関することに関してご意見はございますか。
委員	姫路の方からよく、宍粟にはどのように行ったらよろしいですかと聞かれます。山崎には行くことはできるけれども、そこから北部へはどう行ったらいいかわからないという意見がよく聞かれます。姫路の方にとっては、山崎から先はどう行けばよいか分からないようです。市内の二次交通のPRをすべきではないでしょうか。
委員	利用しないと無くなると思うので、もっと市民が利用しないといけません。PRやキャンペーンをもっと行った方が良いのではないのでしょうか。市外から来られても、そのときには廃止になっていては悲しい。バスの周遊ルートやモデルコースの設定なども考えてみてはいかがでしょうか。
事務局	定期券の割引はあります。バスの推進員を置いて普及もさせてもらっています。
委員	便利でないと使わないと思います。乗る時はバス停だが、降りるときはどこでも降りられるようにすれば、少し便利になるのではないのでしょうか。
委員	私の住んでいる近くは、集落がバス停のある道路より高いところにあり、高齢者がバスに乗る時に不便です。集落の周辺まで来ていただけたら、より使いやすいと思います。特定の日には高齢者を集めて買い物に行くなどすれば、利用者も増えるのではないのでしょうか。
委員	高校生のためには、通学の時間にバスがありますが、通勤の時間帯はあまりないように思うので改善していただきたい。
委員長	コミュニティバスについては、全国的にも経営が厳しいところが多い。また、

	<p>導入するのも大変ですが、宍粟市は割りと容易に導入されたように思います。その反面、市民の皆さんが自分の足を守っていかなくてはならないという意識をどれだけ持っているのか。利用者のニーズと採算の部分はどう折り合いをつけるのか、そのためには利用者の協力も必要であります。お互いに調整する場を設けないと、一方は不便だと言い、もう一方は採算が合わないと言い、いつまで経っても平行線です。</p> <p>また、全国各地でガソリンスタンドが撤退する状況が見受けられます。集落で生活するうえでは死活問題です。例えば、地域が自分達で出資し、さらに様々な商品も含めて住民が経営するという手法もあります。ガソリンスタンドが撤退するという最悪の事態も想定しつつ考えなければならないことです。地域で考える場所をどう設定していくか。併せていつまでにするかというスケジュールも考える必要があります。</p>
委員	<p>地域のタウンミーティングで、地元の農協スーパーが撤退するかもしれないという話が出ていました。やはり生活基盤を守る仕組みが必要であるとともに、出資をするなど今から考えるべきではないでしょうか。</p>
委員	<p>農協スーパーが撤退すれば、個人商店が復活することが考えられるのではないのでしょうか。農協スーパーができたことで個人商店を閉めてしまった例があったと思います。</p>
委員	<p>その話の背景には、高齢化と後継者不足という問題があると思います。個人商店が減少した主要な原因は後継者不足だと思います。農協スーパーが無くなったから個人商店を始めるといふ人はおそらくいないと思います。</p>
事務局	<p>生活圏の拠点を誰がどう考えていくのか、林業も含め地域の経済循環をどう作っていくのか、あるいは、高等学校の魅力化をどうやっていくのかなど、それぞれの課題になかなか市の行政だけでは厳しい点がございます。進め方は、行政が声をかけて色々な方に集まっていただき、コーディネートをさせてもらいながら進めていくことになろうかと思います。その点は、4番目の多様な主体の連携による地域づくりの話になるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>何が課題かが見えていないのが現状である。時間もそんなに多く残されていません。この入り口のところをどう突破するかが大切です。</p>
委員	<p>【産み育てる】少子化対策の取組について、KPI や具体的取組がおおまかに書かれているので内容が見えてこないと思います。次回の会議には、中身の内</p>

事務局	<p>容が分かるようにお示しいただきたいと思います。</p> <p>アクションプランにより戦略の具体化を進めているところですので、KPI や取組の見直し等、またご相談させていただきたく思いますのでよろしくお願い致します。</p> <p>企業版ふるさと納税制度の活用について (事務局より資料を基に説明)</p>
委員長	<p>具体的な事業の中身については、資料を見ただけではよく分かりません。果たして寄付が集まるのかどうか。寄付をする企業にとってのメリットを説明できるようにしなければなりません。</p>
委員	<p>市外の企業にどのように告知していくかが大切です。市内の方が市外に出られて会社をしているという身近なところから始めていくのがよいと思います。</p>
事務局	<p>企業版ふるさと納税は、アクションプランをはじめ総合戦略を進めていくうえで財源の一つとして有効に活用できればと思います。計画の確認や効果の検証で本委員会にもお世話になる必要がございますので、今後もよろしくお願い致します。</p>
委員	<p>企業は寄付の4割は負担しないといけないので、ハードルは相当高いと思います。</p>
委員長	<p>そのハードルを越えられるくらい魅力的なものであるかどうかが大事です。実際に、企業経営者にどういうものなら寄付するのか聴いてみるのがよいと思います。</p> <p>4. その他 次回戦略委員会について</p>
事務局	<p>次回戦略委員会については、委員の任期のことや28年度実績が出てくる時期等も加味して調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
副委員長	<p>5. 閉会</p> <p>今回の委員会では、宍粟市においてやりたいこと、やれることの難しさを感じました。公平性を保たなければならない行政の難しさも感じました。しかし、</p>

	<p>民間にできること、行政にできることを考え、両者が手を組みながらやっていたら、前にはなかなか進みません。現状維持に甘んじている市町は多いが、宍粟市においては官民携えてより良いまちをつくっていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。</p>
--	--